

## フューチャー・アース日本委員会設立趣旨

近年、自然災害や環境問題等、地球規模で急激に変化している環境及び社会情勢の中で、世界においては、それぞれの文化的社会的な潜在力を十分に認めながら今後のさらなる発展が望まれている。地球全体における持続可能性を確保した上での社会形成を目指すためには、地域の経済発展と環境保全が互いを犠牲にし合うことなく、融合し相乗効果を伴いながら様々な課題を解決することが求められる。そのためには、地域社会や政策担当者だけでなく、産業界、市民団体、学术界など様々なステークホルダーと協働し、多面的な視点でこれらの課題を社会各層の関係者と協働で解決する、学際及び超学際研究の必要性が世界的に高まっている。

このような中、既存の国際的な取組の刷新を目指す全く新しい国際学術プログラムとして、フューチャー・アースが 2015 年より始動した。フューチャー・アースは、これらの地球規模の課題を総合的に研究し、問題解決に向けた礎を築く重要なプラットフォーム、そしてネットワーク構築機関として世界的にも認知されつつある。特にフューチャー・アース国際本部事務局の 5ヶ国から成るハブの一つが日本学術会議をリード機関として日本にも設置されるとともに、アジア地域センターが総合地球環境学研究所に置かれる等、日本は世界や地域に対して存在感を示している。

翻って日本国内をみると、日本学術会議が委員会を設置して提言を発出する等、国内でもフューチャー・アースへの取組が積極的に行われている。提言にもあるように、取組に際し、学際・超学際研究を担う様々な主体をネットワーク化し、さらにハブとなる組織作りが急務であり、同時にそれは日本学術会議の委員会とは別に社会のステークホルダーを代表する役割を担う委員会を設置する必要があるとされている。すでにフューチャー・アースの国内における取組のステージは、より実用的、具体的な活動のステージへと進んでいることから、学术界にとどまらず、重要なステークホルダーである産業界や地域社会等と連携し、実地的な超学際研究の取組が必要となる。さらに、国際的な要請もあり、イギリス、韓国など各国で国内委員会（ナショナル・コミッティー）が立ち上がり、活動を行うようになっている。日本が科学を通じた世界の持続可能な発展に貢献していくためには、日本国内の取組を一層推進する必要がある。

このため、今後のフューチャー・アースの国内でのさらなる推進を目的とし、社会のステークホルダーを代表する役割として、現在国際本部事務局日本ハブを支える組織としてあるフューチャー・アース日本コンソーシアムを発展的に改組し、フューチャー・アース日本委員会を立ち上げることとする。フューチャー・アース日本委員会は、フューチャー・アースの問題意識や課題解決のための方策を議論するにとどまらず、その幅広いステークホルダーとの協働を通して国連持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）の実現等、地球規模の課題解決に取り組む決意である。